

危ない! 運転中の携帯電話



監修
川崎医療福祉大学
教授 金光義弘

カラー 17分 VHS 価格63,000円(税込)

製作 ■ 新生映画株式会社

危ない! 運転中の携帯電話

映画のねらい

車を運転中の携帯電話使用や、カーナビゲーション操作等の所謂“ながら運転”による事故が急増しています。

とりわけ携帯電話の普及により、多くのドライバーが当たり前のように携帯電話を車に持ち込み、運転中に使用するケースが増え、死傷事故も後を絶ちません。

特に運転中の携帯電話の使用については、会話に気をとられたり、画像を注視したりすることによって、運転に必要な周囲の状況に対する注意を払うことが

困難となるばかりでなく、片手運転となり運転操作が不安定になることが指摘されている。

そこで、代表的な事故事例を取り上げ、運転中の携帯電話の着信応答時、発信時、通話をしながらの運転が如何に危険であるか、実験により科学的に検証、C・Gを使い分かり易く解説。運転中の携帯電話使用に対する罰則の内容も併せて解説します。又、同時に運転中のカーナビゲーション等の操作の危険性についても触れています。

映画の内容

■ インタビュー

運転中の携帯電話使用についてインタビューを試みた。

すると、多くのドライバーが運転中に危険であると知りながら携帯電話を使用していることがわかった。携帯電話を使用中の交通事故は多発している。どのような事故が多発し、何故運転中の携帯電話使用が危険なのかを事故事例の分析と実験を通して明らかにしていこう。

■ 事故事例—着信応答時

見通しの良い直線道路で起きた追突事故。着信した携帯電話に応答しようと前方から目を離れた数秒間、前を走っていた車が道路右側の駐車場に入ろうとウィンカーを出し、停止したのを見落としたのだ。数秒の脇見による前方不注視が思わぬ事故へと。

■ 検証—脇見運転はこんなに危険(実験)

安全運転中央研修所で実験を試みた。スピードを出し、走行する車での前方不注視は目隠し状態で暴走するのと一緒に、例えば数秒であってもとても危険。

■ 事故事例—通話時

携帯電話で道を聞きながら交差点に進入、横断し

てきた自転車を見落とし撥ねてしまい、乗っていた主婦に大怪我をさせてしまった事故。自転車の主婦はドライバーの視界に入っていた筈なのに何故?

■ 検証—ボンヤリ運転の危険(実験)

実験から、運転中に携帯電話で通話をしていると、目に入っている情報にも見落としや誤反応を引き起こしたり、注意力が分断され、認知、判断、操作にミスや遅れを引き起こすことが分かった。

アイカメラを使った実験でも、携帯電話使用中は視点が余り動かず路面状況に気を配れていないことが明らかとなった。

又、運転中に携帯電話を使用することは片手運転ともなり、咄嗟の事態に的確な操作が出来なくなり、とても危険である。

■ 運転中の携帯電話使用は道路交通法で禁止されています。

反則金、違反点数など、その内容を解説。

■ 車に乗る時は、必ず携帯電話は電源を切るか、ドライブモードにしておきましょう。緊急を要する場合は、車を安全な場所に停車させ通話するようにしたいものです。

製作 ■ 新生映画株式会社

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町6-20-403
TEL 03(3464)4841 FAX 03(3464)4855

配給